

黎明期 (2016年) を拓く元年

ふくしま再生短信

2016 1 / 1 新春特別号 (第11号)

【菅野宗夫撮影：1月1日虎捕山頂から初日を望む】



夜明け前の虎捕山

飯舘村を訪ねたときに通常立ち寄るのは山津見神社の拝殿である。拝殿は2013年4月に全焼したが昨夏再建された。消失したオオカミの天井絵240枚は和歌山大学と東京藝術大学の協力で今年復元を終える。本殿は拝殿の横から虎捕山を登りつめた標高705米の山頂にある（上の写真は夜明け前の虎捕山頂から）。

2016年1月1日、宗夫さんからビッグなプレゼントが届いた。虎捕山頂から初日の出の撮影に成功との写真入り賀状である。

「田尾さまへ 早朝 寒さの厳しい中。虎捕山頂は背から吹き寄せる雪混じりの寒風(中通り地方は暗闇) 凍える動かぬ痛い手で.....でもなんとも言えぬ感動が.....なんか飯舘村のこの黎明期になんかせねば~よろしく願いします。」続いて次報が入る。「遅くとも来年に解除にといわれてる中、今年は「黎明期(2016年)を拓く元年」...と位置づけ、みなさんと共に今までの再生の会活動の継続拡大をはかりつつ 営農再開にもチャレンジしたいと考えてます」という。虎捕山頂には山津見神社のご本殿がある。祈りからよろこびへ。2016年。黎明期を拓く元年が明けたことを共によろこびたい。（撮影と題字原稿：菅野宗夫、本文文責：若林一平）

山津見神社

山津見（やまつみ）は山の神である大山津見神（おおやまつみのかみ）に由来する。山の神の御眷属様（ごけんぞくさま）は白狼（オオカミ）である。源頼義が橘墨虎（たちばなのすみとら）を討ち取ったときに山の神が「虎」退治を助

けるために遣わしたのが白狼であった。山の神の威徳を称えるために頼義が創立した祠が山津見神社の起源である（1051年）。秩父の三峯神社、青梅の武蔵御岳神社、も同じオオカミ信仰で知られる。オオカミは、ご神犬、御眷属様とも呼ばれ、あらゆるものを祓い清



め、さまざまな災いを除くと言われる。（上の写真は山津見神社拝殿正面）

共感・交流・健康

ふくしま再生短信 2016 3/8 (第12号)

2/29 健康医療チーム同行記

仮設住宅

2016年2月1日現在、944人の村民が10ヶ所の仮設住宅に避難している。今回訪問したのは「松川仮設第一住宅」で170人が避難生活をおくっている。借り上げ住宅などの各施設への避難者を含めると施設合計の避難者数は3,850人である(飯舘村役場HPから)。

【カット写真(左上から時計回り)】内科医・相澤力さんによる講話「知っておきたい糖尿病の基礎(1)」、足のケアをしながら語りかける介護福祉士・松田純子さん、足のケアの前に体操を呼びかける看護師・若佐実枝子さん(右)、神妙に整体を施す斎藤快運さん(右)、似顔絵を描く杉山百合子さん(右)、自治会長・木幡一郎さん(右奥)を交えて健康医療相談を受ける相澤力さん(左)、全体会司会の臨床心理士・中町英佐子さん。

【背景写真】足のケアに注力する看護師・八木優子さん(中央)と飯舘村から応援に駆けつけた菅野永徳さん(右)。

2016年2月29日朝8時40分、ふくしま再生の会健康医療チームはこの日の活動会場の福島市松川工業団地にある松川仮設第一住宅集会場に到着した。管理人の高橋よう子さん、仮設住宅の自治会長・木幡一郎さんが出迎えてくれる。チームリーダーの中町英佐さんとは既に旧知の仲である。

今回企画に参加した村民は16人。健康医療チームは11

人。午前9時、中町さんの司会で全体会が始まる。最初は整体師・斎藤快運さんによる10分ほどの全身体操。続いて内科医師・相澤力さんの「糖尿病」についての講話、生命活動の基本から始まり病いのメカニズムに至る丁寧で優しい語り口の30分だった。全体会のあと内科医・相澤さん、精神科医・三吉譲さん、精神保健福祉士・北村充成さんがそれぞれに健康医療相談を受

ける。足のケアを始めとする多彩なプログラムが生命のリズムに寄り添う穏やかな時間の流れの中で進行した(上記写真をご覧ください)。

特筆したいのは井上泰助さんと岸田峻太郎さん、2名の若き東大院生の協力、菅野永徳さんの応援参加である。仮設の集会場は活気ある交流の場となり、正午にすべての予定を無事に終えることができた。(撮影・文責:若林一平)

内科医・相澤力さん講話「知っておきたい糖尿病の基礎(1)」(当日の動画) http://miyoshiyuzuru.net/160229_094722.3gp



ま で い の こ こ ろ で サークル「までい」訪問記

最初の一步

2012年9月、飯館村における東大大学院農学生命科学研究科の研究協力の開始を契機として、現地に行けなくても東京で飯館村再生のボランティア活動をしようという趣旨で東大農学部ボランティアサークル「までい」が発足した。呼びかけ人は農学部職員の齋藤富子さん。最初の一步である（上の写真はサークル室ドアに掲示されている当時の呼びかけビラ）。

【カット写真（左上から時計回り）】1. 東大農学部1号館（地階に職員サークル室がある）。2. バイアル（試料瓶）を手にして説明する齋藤富子さん。3. バイアルの質量測定。4. 読み上げた測定結果をテンキーから入力。5. 勉強会①データベース入力実習（右はデータベース入力を説明する再生の会放射能分析チームリーダー・伊井一夫さん）。6. 勉強会②放射線植物生理学研究室・廣瀬農さんの放射線についての小講義。7. 勉強会③熱心に受講するメンバーたち（左から加藤、土居、丹羽、池田のみなさん）。8. 飯館村菅野宗夫さんの牛舎（この写真のみ撮影は2011年6月6日、現在建物内に試料保管庫がある）。【背景写真】測定を待つバイアルたち。

2016年3月22日午後3時30分、記者はボランティアサークル「までい」を訪ねた。メンバーのみなさんはバイアル番号の読み合わせと質量測定の真っ最中である。測定のための試料はバイアルと呼ばれる「試料瓶」に封入される。

試料の放射能の測定は農学生命科学研究科の研究室で行われる。サークルの役割は再生の会が飯館村で採取した試料を農学生命科学研究科の研究室で緻密&体系的に測定で

きるように試料と付随データを用意することである。各試料がいつ・どこで・どんな条件で採取されたものか（例えば除染の前か後かなど）網羅的に記録するデータベースづくりという「までい」（真心こめた丁寧）な作業をサークルは担う。すべての測定を終えた試料は最後に佐須の（写真8の牛舎内の）保管庫に行く。

夕刻、齋藤さん始め勤務を終えた職員メンバーが登場する。午後7時から本日のハイ

ライト・最初の月例勉強会が始まる。まずは伊井さんが指南するデータベース入力実習である。そのあと廣瀬さんの放射線の講義が続く。

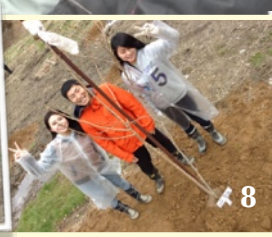
午後8時半この日の予定を終えてインドカレー屋さんで遅い夕食と飲み会のひととき。御三家（齋藤・丹羽・土居）のみなさんから生命力（いのちのちから）を分けていただき記者は家路につきました。

（撮影・文責：若林一平）

春風到来



4 / 17 桜の植樹とカタクリ見学ツアー



「山は宝」

山に入ると大久保金一さんの語りが始まる。金一さんの表情が実に生き生きとしてくる瞬間だ（上の写真）。山は食を満たし人生を満たしてくれる宝だという。山に入ると、金一さんは決まって言う。このかけがえのない宝を奪い台無しにしたのが原発事故だと。写真1～3の20種類もの水仙達は買ってきたものは1本も無い。金一さんが野の花との対話を通して発見し株分けして増やしてきた。水仙は金一さんの思いを知る証人たちだ。

【カット写真（左上から時計回り）】1. 水仙（1）。2. 水仙（2）。3. 水仙（3）。4. カタクリ見学ツアー（1）群生地で説明。5. カタクリ見学ツアー（2）丸木橋を渡って下山。（以下は桜の植樹）6. 東大溝口研究室。7. 茨城大西脇研究室。8. 佐賀大徳本研究室。9. 東大田野井研究室・二瓶研究室。10. 東大農学部「御用達」居酒屋<ちどり>マスター。

【背景写真】植樹とツアーを無事に終えて集合写真撮影のために集う仲間たち（その一部）。

2016年4月17日午前9時、再生の会第一陣30名が飯舘村小宮地区にある大久保金一農園「マキバノハナゾノ」に到着した。天気予報は終日の雨。前日から霊山（りょうぜん）センターに宿泊していた面々は折からの驟雨の中、朝食もそこそこに植樹に駆けつけた。しかし、天は再生の会に味方してくれた。マキバノハナゾノは曇り空でときどき小雨、時に青空も覗くことができる絶

好の作業日和りになった。

金一さんはこの日、新種の「御殿場」も投入して合計70本の桜の植樹を計画した。東大、茨城大、佐賀大の学生のみなさんを先頭にして金一さんの手解きを受けながら次々と植樹を進めた。昼近くまでに第二陣の26名が到着して、午後一時までには予定の植樹をすべて終えることができた。お昼は佐野シェフ謹製の手作りオニギリ弁当に皆舌鼓を打った。

午後一時半カタクリ見学ツアーに出発、山に入る。残念ながらカタクリは最盛期を過ぎていたが、可憐な姿で我々の目を楽しませてくれるカタクリが地中で人知れずその生命の営みを数年にわたって続けている様子を金一さんが丁寧に語ってくれた。下山した後、金一さん自慢の水仙畑の前で集合写真撮影が行われて、午後3時に全日程を無事に終えることができた。

（撮影・文責：若林一平）

ふくしま 再生 短信

5 / 1 4 霊山センター春の大宴会探訪

✧ 世界と交流 ✧

2016年5月14日午後6時40分、恒

例の「霊山センター大宴会」が
ふくしま再生の
会霊山センター・
食堂棟で 理事長
の田尾陽一さんの
司会で開催され
た。この日の参加
者は総勢70余人、グル
ープ参加は公益財団法人
渥美国際交流財団・
関口グローバル研究会
(SGRA)から10名（今西淳子常務
理事、角田英一事務局長含む）、
認定NPO法人プラチナ・ギルド
の会から12名（奥山俊一理事
長、中町美佐子副理事長・事務
局長含む）。霊山セン

ターが立地する伊達市東玉
野・石田・掛田地区、飯館村

佐須・松塚・比曽・小宮地区から、明
治大・東大はじめ研究
陣も多数参加。イタリ
ア、韓国、アメリカ、
スウェーデン、カナダ、
日本等 国籍も多彩、
参加メンバー構成も
老若男女そのもの。

冒頭の挨拶で、帰村に向け
て着々と新事業の準備を進
める牧場主の山田猛史さん
(左写真)は「困ったという
話より前向きな元気が出る話を今
日はしよう」と呼びかけた。会
場の一角で小サミットが持たれ
ていた。渥美国際交流財団の角
田さんとプラチナ・ギルドの奥
山さんだ。「ふくしま再生」
を世界ブランドにという企
み。そう聞こえた。歴史を拓く大宴
会的一幕だ。(撮影・文責：若林一平)



クマガイソウ・ジャイアント ミスカンサス・代掻き除染

5月14日午後、プラチナ・ギルド
一行は比曽地区の菅野啓一農園を
訪ねた。ちょうど居久根の杉林で
は啓一さん自慢のクマガイソウの

群生地が満開の季節を迎えていた(写真左)。同日
菅野啓一農園ハウス南側で、明大登尾
研究室・中島亨チームはバイオ燃
料として期待されるジャイアント



ミスカンサス試験作付
け実施(写真中央)。5月15日午前SGRA一
行は、小宮地区の久
保金一農園田圃で代掻き除染に挑
戦(写真右)。この方法は「田車
除染」で一躍有名になった東大・
溝口勝理論を応用したもの。